

各 位

一丸ファルコス株式会社

**一丸ファルコス、カワラヨモギエキス中に新規活性成分を発見。
Kawarayomogin I, II と命名し、英科学誌「Scientific Reports」に論文掲載**

一丸ファルコス株式会社（本社：岐阜県本巣市、代表取締役社長：安藤芳彦）は、販売中の「HYBID からヒアルロン酸を護り、将来のたるみをケアするアンチエイジング天然原料『ヒアルガード（カワラヨモギエキス）』」中に新規活性成分を発見、これを Kawarayomogin I, II と命名し、英科学誌「Scientific Reports」にその論文が掲載されたことをお知らせします。

弊社では 2023 年 5 月より、真皮ヒアルロン酸分解を司る HYBID の発現を抑制し、真皮ヒアルロン酸の低分子化を防ぎ、たるみやシワなどの老化症状の予防・改善への効果が期待されるアンチエイジング天然素材として、カワラヨモギエキス「ヒアルガード」を販売してきました。

ヒアルガードについて、発売後もその機能性の作用機序や活性成分の探索を続けてきましたが、カワラヨモギエキスの中で HYBID の発現を抑制している未知の成分を発見、この化合物に植物の日本名から、Kawarayomogin（カワラヨモギン） I 及び Kawarayomogin II と名付けました。さらにこれら新規の活性成分を含むカワラヨモギエキスは直接 HYBID の発現を抑制しているのではなく、マイクロ RNA である miR-486-5p の発現を上昇させることで、エピジェネティックに HYBID の発現に影響を与えていることを突き止め、英科学誌「Scientific Reports」に投稿し、このたびその論文が掲載されました。

弊社では今後もヒアルガードの研究を続け、根拠のある機能性天然原料として、日本国内ならびにグローバル市場に更なる拡販をしていきたいと考えております。

【論文情報】

“Artemisia capillaris with two novel active compounds, Kawarayomogin I and II, inhibits HYBID (KIAA1199) expression as well as hyaluronic acid degradation”

（2つの新規活性成分カワラヨモギン I, II を含むカワラヨモギは HYBID (KIAA1199)の発現およびヒアルロン酸分解を阻害する）

[Scientific Reports 15\(2025\), 2042](#)

カワラヨモギエキス「ヒアルガード」と今回の研究内容は、著者のカザール自身がショート動画で紹介していますので、ぜひご視聴下さい。



YouTube : <https://youtu.be/GtFS5o2l92g>

●ヒアルガードについて

ヒアルガードは、消炎・利胆作用を持ち、漢方では黄疸や蕁麻疹の治療にも用いられるカワラヨモギ頭花（キク科・多年草）から抽出したエキス（医薬部外品表示名称・カワラヨモギエキス）。ヒアルガードは、ヒアルロン酸の新分解経路 HYBID（HYaluronan-Binding protein Involved in hyaluronan Depolymerization）に着目し、真皮ヒアルロン酸を護って将来のたるみを予防する効果が期待されるアンチエイジング原料です。

「ヒアルガード」 製品概要

- ・表示名称（化粧品）：水、BG、カワラヨモギ花エキス
- ・表示名称（医薬部外品）：精製水、1,3-ブチレングリコール、カワラヨモギエキス
- ・INCI：Water, Butylene Glycol, Artemisia Capillaris Flower Extract
- ・IECIC 2021：水、丁二醇、茵陈蒿(ARTEMISIA CAPILLARIS)花提取物
- ・ヒアルガード詳細ページ：<https://www.ichimaru.co.jp/cosmetics/415>

図表



図1 カワラヨモギ頭花 *Artemisia capillaris*

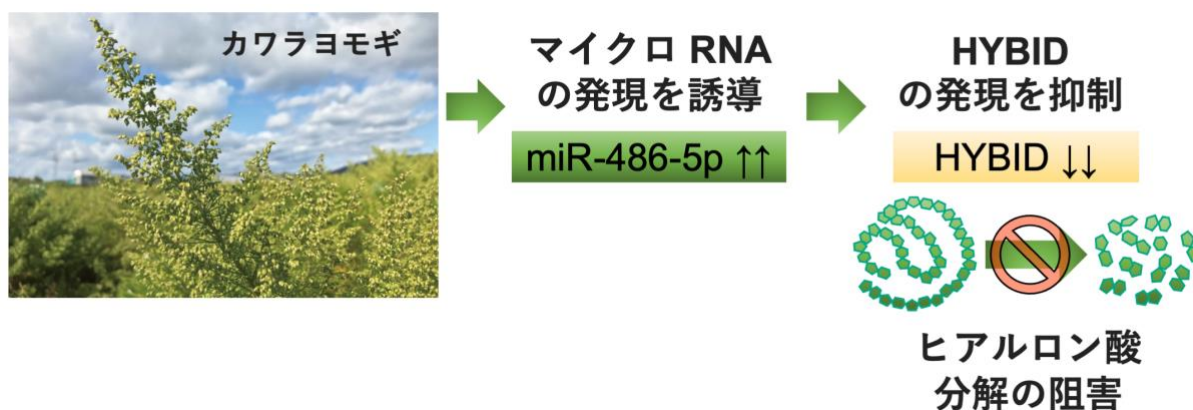
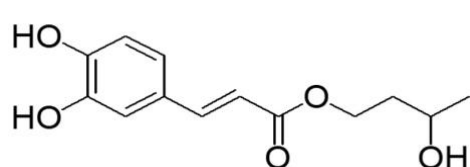
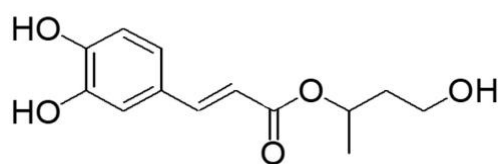


図2 カワラヨモギエキスの作用機序



Kawarayomogin (カワラヨモギン) I



Kawarayomogin (カワラヨモギン) II

図3 今回発見・命名した新規化合物

お問い合わせ先：一丸ファルコス株式会社 営業部 販売促進課：伴野規博
TEL：058-320-1061, e-Mail：press@ichimaru.co.jp

以上